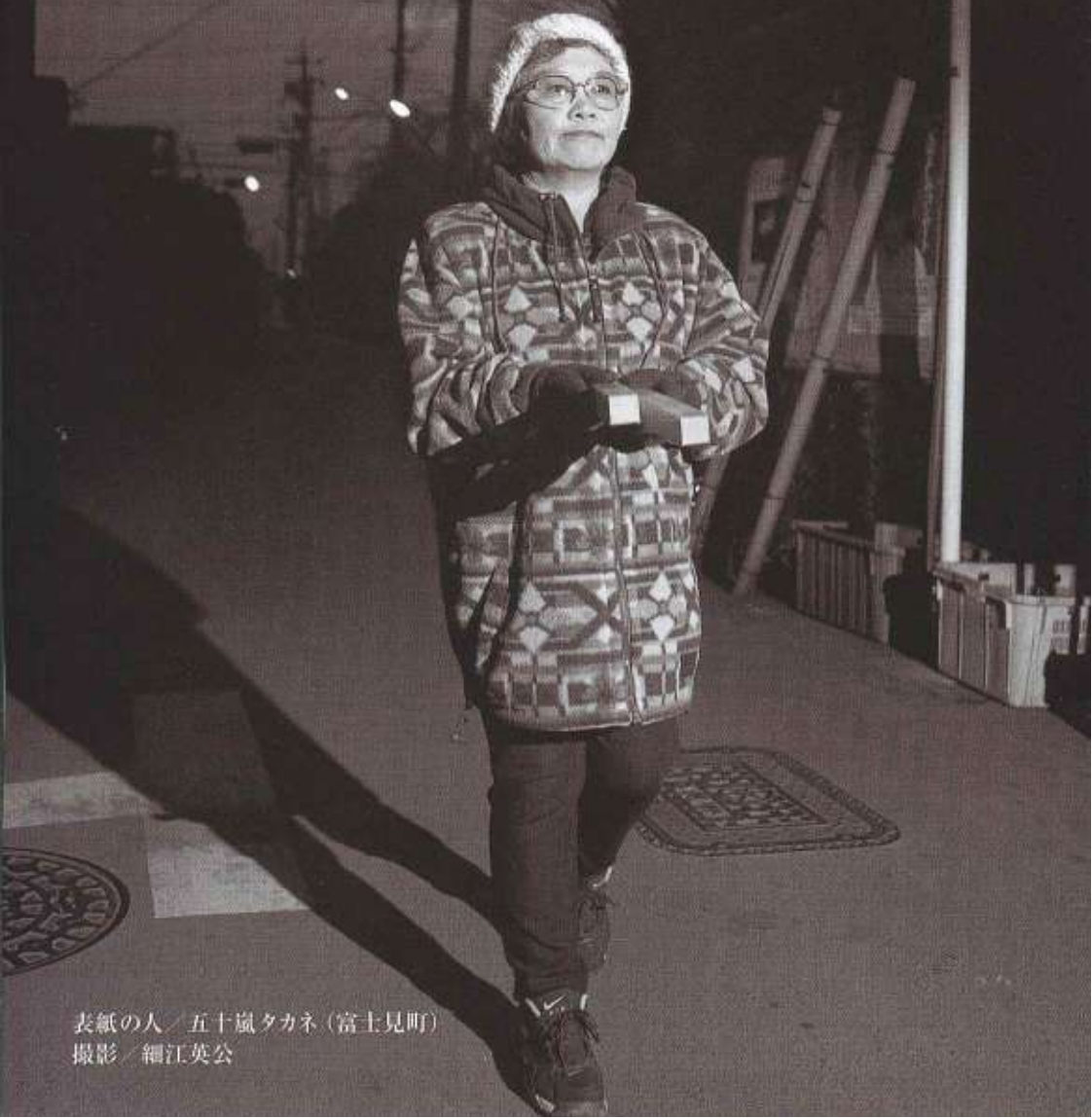


えくてびあん

2 立川と語ろう 立川に生きよう
FEBRUARY 2001
EKUTEBIAN Vol.19 No.199



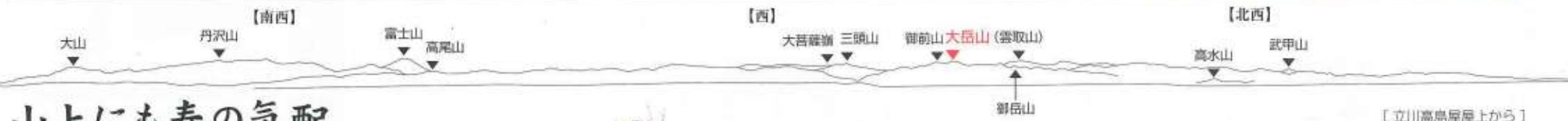
表紙の人 / 五十嵐タカネ (富士見町)
撮影 / 細江英公

【新連載】

立川から見える山 ①

大岳山 (1267m)

案内人 守屋龍男



山上にも春の気配

立川から見て西の方に鍋を伏せたような姿をした一際目立つ山が大岳山である。山頂部の一部が尖っているので「キューピー山」との愛称で呼ぶ人もいる。さらに、この山に雲が掛かると雨になるとの言い伝えもあり、砂川に古くから伝わる棒打ち唄（麦打ち唄の一つ）では「大岳山の黒雲が掛かれば雨か嵐かホイホイ……」と唄っているくらい多摩の人々には馴染みのある山である。

まだ冬枯れが残る浅春三月に登ってみた。御嶽神社境内から山腹の登山道に入る。さっきまでの賑わいが嘘のように静寂なコースをのんびりと歩く。時折、まだ鳴き慣れていないのか少しぎこちないうグイスの声が聞こえ春の気配を実感させる。急坂を登り鎖場や梯子を過ぎると大岳山荘や大嶽神社がある平地に出る。白装束に身を包んだ山伏修験者に出会った。ここは霊験な修行の山でもある。ここから一投足で山頂に着く。山頂は展望抜群で富士山や丹沢連峰が指呼の間に迫って見える。



守屋龍男さん
登山家、元立川九中校長

【行程】

JR青梅線御嶽駅＝西東京バス10分＝湯本駅＝ケーブル6分＝御嶽山駅－20分＝御嶽神社－1時間50分－大岳山荘－20分－大岳山頂（往路を戻る）歩程約4時間。山頂から北西に尾根道をたどり嵐山をへて奥多摩駅へ出るコース（帰路3時間）、大岳山荘から南へ下り橋原村白倉へ出るコース（帰路2時間）も。

【立川高島屋屋上から】



子供連れも多い登山道。山頂では野鳥が昼食をとる登山者に餌をねだる。



私と大岳山

八王子生まれの私たちは「キューピー山」と呼んでいました。高校時代、足に血豆を作って初めて登山らしい経験をした山でもあります。どこからでもよく見え、幼なじみのような存在です。

西村麗子さん（主婦・富士見町）





日本には卓越した「童謡」がある

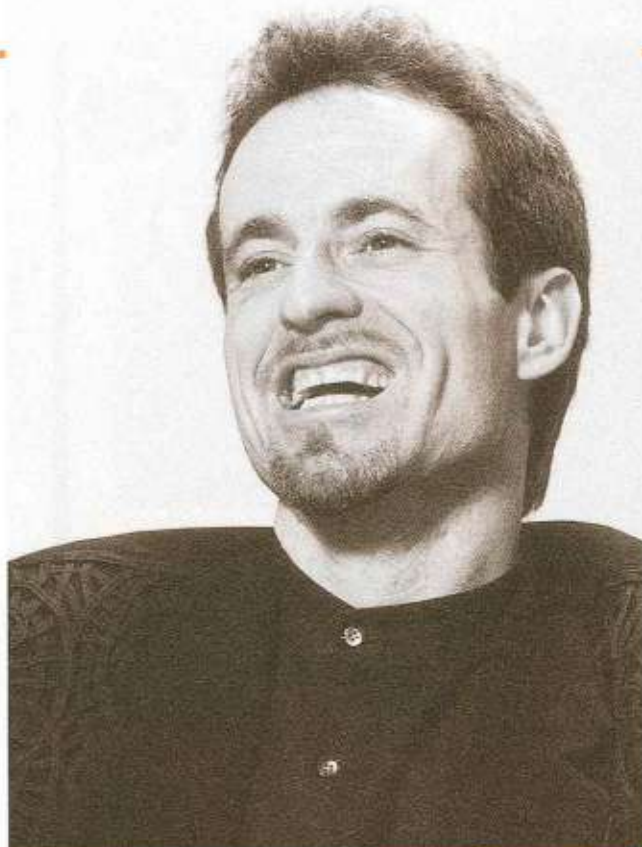
作曲家・ピアニスト ブルース・スタークさん 後編

啓介 この前、アミューたちかわでの演奏を見て思ったんだけど、ブルースさん、演奏中に他のプレイヤーに目配せをしたり傾いたり、しきりにやっていたでしょ？ あれ、音で「会話」してるの？

スターク そう、そんな感じ。特にこの間はジャズ・トリオだったからね。ジャズはそういう要素が大きいんですよ。

啓介 それぞれの技術も勿論だけど、音でコミュニケーションできるかどうかの問題

なんです。技術は大事よ。でもボクが知る限り、偉大なプレイヤーほどちゃんと周りの演奏をしっかり聴いている。この前あるレコーディングで、トミー・キャンベルという素晴らしいジャズ・ドラマーと一緒に演じたんだけど、この人は伝説的なプレイヤーともたくさん競演してる。凄いビッグ・ネームなんですよ。でも、全然エラソーリじゃない。凄く謙虚。ボク



■ブルース・スターク 南カリフォルニア出身。84年、ジュリアード音楽院作曲科を卒業し修士号を取得。ピアノ曲をはじめオーケストラ曲、ジャズに亘り多くの作・編曲を手掛け世界各国で上演。作品は各メディアを通じ、国際的に放送・発表されている。立川人としてのブルースさんは地域との交流も積極的。市民創作ミュージカルへの参加、アミューたちかわでのトリオコンサートの実施など、わが街の音楽文化の発展に努める。国際的な活動を展開しつつ、プロ・アマの垣根を越え、音楽を通じて真摯な交流をほかる。ブルースさんの大きな魅力の一つだ。

■立井啓介 (たていけいすけ) / 本誌発行人

の演奏も全部聴いてくれた。そしてボクのやっていることを、凄くいいレベルに引き上げてくれた。とても勉強になりましたよ。

啓介 きっと、人間としての「器」が大きいんじゃないか。

スターク ウツワ？ 何？

啓介 えっと、そうだな……、ハートが入ってる「容れ物」が大きいってこと。

スターク そうそう、ウツワ、大きいんだよ。それ、いいイメージだね。覚えておこ(笑)。

啓介 コミュニケートと云えばブルースさん、「IT」って言葉知ってる？

スターク 「Information Technology」って云うんだよね(笑)。

啓介 そう(笑)。今はどこへ行っても何を見ても、ITでもちきりなんだけど。

スターク 都合良く考えたいですよ。

啓介 結局、便利になったってことだけなんだから。この前もイギリスのオーケストラの公演のために、Eメールで楽譜を送ったんです。パート譜も直しも、全部Eメールでやりとり出来た。時間もお金もかからないし、凄くラクでしたよ。ボクにとってはIT化って云ってもただの「道具」だよ。編集の仕事だって、もうずいぶんコンピューター化されてるでしょ？

啓介 もちろんそう。でも一方でブルースさん、人間としてそれほど口利じゃないような気もするんですよ。

スターク うんうん、それわかる気がするね。テクノロジーをもう代わりに、何かを失くしている感じ？

啓介 うん、そう。言葉にすると、ヒューマニズムとか、血の温かみとか。

スターク 一日中コンピューターゲームをやってる子供たち、ちょっと怖いよね。彼らが二十五歳になったら、いったいど



■第16回「ベスト立川人・匠」パーティーにて挨拶をするスタークさん(1/13・パレスホテル)

うら出演したんだけど、それが流れてからCDやコンサートでボクを評価するんじゃないか、テレビCMに出たってことでスゴイって云われちゃったんだよね(笑)。

啓介 うーん(笑)、ちょっと呆れちゃうね。

スターク でしょ？ 日本の文化ってテレビだけじゃないのに。素晴らしい文化がたくさんあるのにな。

啓介 たとえば、ブルースさんが好きな日本の文化って？

スターク ボク、一昨年くらいから、仕事で日本の「童謡」を編曲してるんですよ。童謡はスゴイ美しい。大好き。ちょっと泣きそうになる。

啓介 ああ、そうそう。僕も日本の童謡だとか童謡や昔話は、きっと残っていく文化だと思う。

スターク 絶対に残ると思うよ。ボクは童謡と出会ったことだけで、日本に住んで良かったと思ってるくらい。「里の秋」「おぼろ月夜」「ベチカ」「荒城の月」……、みんなホントに美しい。愛している曲がたくさんある。日本がイバっていいことだと思いますよ。宝物だよ。ボク

んな風になっちゃうんだらうって。最近子供たちの犯罪って多いでしょ？ 幻想とリアリティーがゴチャゴチャになってる気がする。

啓介 技術が発達するのは喜ばしいことだけど、人間としての温もりとか、ヒューマニズムを守りながらより良い方向へ持っていく。これ、ブルースさんのように「アーティスト」と呼ばれる人の、ひとつの役目だと思うんだけど。

スターク うん、大切な問題だよ……。チョット立井さん、いつもそんな難しいこと考えてるの(笑)？ ボクはタダの作曲家なんだから、そんなこと聞かれても困るよ(笑)。

啓介 いやいや(笑)、でも云ってること、わかるでしょ？

スターク うん、そうね……。もしボク

が役に立てるとしたら、希望のあるもの、ポジティブなものを創るということですよ。それは立井さんが云うように、芸術家の責任だと思っ。逆に暗い作品を創ったとしても、それは人間としての反省だったり、ザンゲ(懺悔)を表現しているわけだから、大きな意味でポジティブだよ。一言で云うと、作品で「自由」を考えることがボクらの役割だと思ってるんだ。よく使われる云い方だけど、いい音楽は絶対に国や文化を超える。これは間違いない。

啓介 話は変わるけれども、前から疑問に思ってたんだけど、どうして年末になるとベートーヴェンの「第九」が演奏されるんだらうって。ブルースさん、知ってる？

スターク そう！ ボクもそれ知ってたんだ。日本だけだよ、これ。年末だけじゃなくて、いつ聴いてもいいじゃない(笑)。素晴らしい作品なんだから。

啓介 ああ、やっぱり日本だけなんだ。スターク きっと何か理由があるんだらうね。でも、それよりボクが気になるのはテレビのCMですよ。どうしてクラシ

ックの素晴らしい曲が、あんなヘンな使われ方するのか。車とかカレードカ。

啓介 確かに(笑)。

スターク ボクは以前、東京音大の付属高校で理論を教えたことがあるんですよ。その時、レコードで曲をかけたりますと生徒が笑い出すんだ。

啓介 ああ、コマーシャルで聴いた曲だつて。

スターク そう。アレ、やめて欲しいよね。悲しいんだよ。ボクは作曲家だから余計感じるんだらうけど、ショパンやモーツァルトの素晴らしい曲が、どうしてモノを売するための道具になってるのか。作曲家に失礼だと思っ。こういうことも日本だけなんだよ。

啓介 作品として純粋に観賞される前に、余計なファクターを通してしまっからね。

スターク 日本のCMはプロダクションが凄くてクオリティは高いんだよ。でも、もう少し考えて欲しい。ボクも三年くらい前にCMに出たことがあるんだ。日立のCMなんだけど、外人で指揮者の役が必要ということと呼ばれた。バイト感覚だったし名前も出さないうつていうか

はここ二、三年の内に、まとめてみたいと思ってるんだ。

啓介 でも、悲しいことに、今の日本の子供たちは、童謡をあまり知らないんですよ。まず触れる機会が少なくなつたし、音楽の教科書からもだんだん削られてしまつてる。

スターク ナンセンスだよ。以前、錦織健(テノール歌手)と一緒に演じた時にも童謡をアレンジしたんだけど、二〇代のお客さんが「あのきれいな曲はなんという曲なんですか」って訊いてくるんです(笑)。外国人のボクが編曲したから耳新しい感じにはなっていると思うけれど、メロディーはほとんど弄っていない。弄る必要がないからね。それでも、若い人にはわからないんだよ。

啓介 自分の国の文化を、アメリカ人のブルースさんから教わってるんだ(笑)。

スターク そうよ。ボク、貢献してるんですよ(笑)。

啓介 童謡、残っていくかなあ。

スターク バッパだつて埋もれていた時期があったけど、メンデルスゾーンが復活させた。絶対に童謡は残るよ。

若葉町	ふとんの青木寝商	若葉町1-8-1 536-6833
若葉町	美容室 リラ	若葉町1-11-1 536-3048
若葉町	みふじサイクル	若葉町1-12-4 536-7166
若葉町	紀の国屋 立川支店	若葉町1-13-2 536-1604
若葉町	いなげや 立川若葉町店	若葉町3-21-1 537-4119
若葉町	多摩中央信用金庫 栄町支店	栄町2-59-8 536-9711
若葉町	手打ちそば 倍更	栄町5-12-1 537-0991
若葉町	相模屋 酒店	栄町5-61-8 536-2476
若葉町	メンズカット ヤザワ	栄町5-61-31 536-8738
若葉町	森田接骨院	栄町6-6-25 535-6240
西砂町	パティスリーブルミエール	西砂町1-36-11 531-4835
西砂町	ぎやらりー 蘭	西砂町5-8-2 531-2392
幸町	いなげや 立川幸町店	幸町1-23-6 537-1820
幸町	支那そば パワー軒	幸町2-35-3 535-1665
幸町	お菓子処 花奴 すずかけ通り店	幸町3-17-3 536-8785
幸町	ティールームプチ・フルール	幸町4-16-1 535-6734
幸町	とんかつ・割烹 かつ亭	幸町4-59-3 535-4611
幸町	和洋菓子たちばな	幸町5-2-16 537-0347
幸町	BSタイヤショップ 佐藤商会	幸町5-10-2 537-0812
幸町	林 歯 科	幸町2-7-10 522-5657

えくてびあんの輪

人があて、街があります。
あなたがあて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

幸町	手づくり焼肉材料専門店 北島こうじ店	幸町1-4-28 524-3190
幸町	new Gyoza 1059 餃子天国	幸町1-5-6 526-2283
幸町	ステーキレストラン リブレ	幸町1-8-3 527-1630
幸町	和菓子処 ゆうき	幸町1-8-5 525-0780
幸町	ザ・クレストホテル立川	幸町1-12-1 521-1111
幸町	美容室 アリス	幸町1-15-21 525-1100
幸町	パンと洋菓子 うちのヤルマン	幸町1-18-7 524-9280
幸町	駄菓子・ファンシー むぎばたけ	幸町2-1-1 526-0210
幸町	美容室 FALCO	幸町2-1-10 528-2369
幸町	諸官公庁専用車・日用雑貨 池田屋	幸町2-1-10 522-3731
幸町	酒の寿屋	幸町2-1-13 522-3625
幸町	しゃぶしゃぶ・鍋料理 しゃぶ・りん	幸町2-1-33 527-2228
幸町	スペイン料理 TAPAS	幸町2-2-29 529-0733
幸町	振興信用組合 立川支店	幸町2-2-32 524-1471
幸町	三田花店本店	幸町2-5-23 524-4187
幸町	セガミ薬局	幸町2-7-8 525-9212
幸町	アミューたちかわ	幸町3-3-20 526-1311
幸町	そば処 高尾亭	幸町5-5-31 522-2710
幸町	レストランテラ・ポボラリータ	幸町6-9-25 527-3880
幸町	高齢者総合施設 至誠ホーム	幸町6-26-15 527-0031

アメリカ村の人々

写真家・石崎幸治の外人ハウス探訪



外人ハウスを初めて訪ねたのは十七年前の雑誌取材のときだった。緑の芝に囲まれた平屋モルタル造りの内部は、細かく仕切られてなく広々としていた。そこには「自由」とか「夢」を感じさせる何かがあった。

そもそも外人ハウスは戦後、進駐軍の兵隊が住むために作られた貸家である。欧米風の生活だから靴を脱ぐための三和土はないし、バスタブと便器が同じところにある。アメリカ軍の基地が縮小されるにつれて、だんだんと日本人も住むようになった。

そのハウスも築五十年以上たち、相当ぼろぼろになって取り壊されるものが多くなった。バスルームでシャワーを浴びていて、壁に手をついたら隣の寝室に倒れこんだという笑い話のようなこともあったそうだ。

ハウスに住んでいる人に会ってみたいという好奇心から撮影を始めたが、ハウスを舞台に自分の好きなことをして暮らしている人たちの貴重な記録になりつつある。

〈石崎幸治〉



石崎幸治 (いしざきこうじ)
写真家。1947年、東京都府中市生まれ。1971年に早稲田大学商学部卒業後、約1年の会社勤務を経てフリーランスのカメラマンに。風景、人物、料理、建築と幅広い分野で活動を展開。昨年8月にギャラリー新紀元(曙町)で「外人ハウスに住む人々」と題して写真展を開催した。

(自己申告によるプロフィール)
●氏名/職業/ハウス在住歴
●ハウスに住む理由
●あなたの夢は?



●藤岡美知子/舞台美術家/23年
●アトリエが必要。自然だから。
●毎日工作し続けて死ぬ。



●野上文天・正美/コンピューターシステム開発/20年
●自由。
●心の壁をとりはらうこと。



●立野マリ/お絵かき/25年
●広い空間、面白い仲間、自由な空気、楽しい貧乏。
●広い広い海が見える所で友達同士近所に暮らして
今のような生活をしたい。週刊新潮の表紙を死ぬまで描きたい。



●玉腰多恵子/グラフィックデザイナー/20年
●一階・平屋・庭付・木造・広い部屋がある。
●ホロくて密閉感がない。友だちが多くバーベキューなどスグできる…。
●南国楽園暮らし。



●さとうその子/アーティスト/25年
●空間が広い。
●ターシュ・ディューダーのように生活したい。



●斉藤正良/音楽家/17年
●自由スペース。
●ファンキーなおじいちゃんになること。

(富士見町)

富士見町5丁目、この寒空にカーン、カーンと火の用心の拍子木が響く。タカネおばさんが毎晩町内を打って回る音だ。タカネさんがご尊父から引き継いで、実に16年間に亘って鳴らし続けてきた。誰に頼まれたのでもない、寒夜、自然に足は町内に赴き「火の用心！」を呼び掛けている。「私が回っているうちは、絶対に町内から火事は出さずまい」という気概が滲み出てくるという。拍子木にも贈りのいいものとそうでないものがあり、タカネさんの打つ拍子木はもう何代にも亘っている。

(於・富士見町小路/撮影・編江英公)

東風

年頭から21世紀、21世紀と騒ぎ立てられると、耳にタコができる心地だが、それでも高、世紀をまたいで生きている喜びはうすれない。1月の13日に「えくてびあんパーティー」を例年のように開いたが、200人以上の方がご参加くださった。嗚呼、この方々と共に新世紀を生きてゆけるのかと感無量であった。人が一番好きなのは、やはり「人」なのであろう◆今月号の対談を読んで、アレっと思われた方も多いのではないだろうかと察するが、先月、工房でやった対談があまりに面白かったので「前編」と「後編」とに分けて掲載してみた、はじめての試みである。音楽家といわれる方は幾人か対談させていただいたが、ブルース・スタークさんの場合は作曲家、編曲家、ピアニストという幅の広さ、深さもあって長時間にわたった。世界的な音楽家が柏町に住んでおられるとは、ゆめ考えなかつたことだ◆通称「アメリカ村」は不動産評価では大した価値はもたないかも知れないが、どこか、日本の家屋がもっていない魅力がある。住んでいる人々のキャラクターがひと味ちがうのかも知れない。少し大仰に聞こえるかもしれないが、生活哲学をもっている人たちのなかで◆オルガンの なつかしき音 えくてびあん

【第三次えくてびあん同人】

編集 大久保清志/小林康史/杉山清純/
芳賀敬博/山田五郎
デザイン 池田隆男/AMNET DF
写真 長坂洋平/五来幸平

えくてびあん 2月号

第19巻 通巻199号
平成13年2月1日発行
発行 えくてびあん編集部
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 立井啓介
発行人 瀬尾勲三
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。

Topics トピックス

『ペDESTリアン・デッキ』完成

1月12日/JR立川駅北口デッキ開通記念式典

かねてより建設中だった立川駅北口の連絡デッキ、通称「ペDESTリアン・デッキ」の主要通路が完成。1月12日、その開通記念式典が行われた。

当日はまずアトラクションとして、あおば第二保育園の園児27名による「ブルーリーフエンジェルス」の演奏。続いて、民間では日本唯一の女性だけのマーチングバンド「総合警備保障・女子儀仗隊」の演奏が披露され、お祝いムードを盛り上げた。



式典ではまず、主催者である立川駅北口駅前地区まちづくり協議会会長・伊藤平八郎氏が「着想から7年を数えたデッキの開通で、北口の更なる発展を目指したい」と挨拶。続いて来賓代表として立川市長・青木久氏も祝いの言葉を述べた。そして来賓者11名によるテープカットの後、いよいよデッキの渡り初め。女子儀仗隊の先導のもと、JRコンコースから多摩モノレール立川北駅までの経路を、待ちかねていた市民およそ200名が一斉に渡り、北口の新しい風景を楽しんだ。



木浦館 MOPPOU-KAN

- 羽衣町1-18-1 土方ビル1F
- 527-3006 ●17:00～深夜2:00
- 火曜日定休 ●24席 ●Pなし

この値段でこの味！
本場、韓国の味を愉しみに行こう

羽衣町に、本場、韓国の焼肉が食べられる店がある。オーナーの鈴木吉子さんは、韓国でも風光明媚な土地として知られる木浦の出身。韓国料理は、南のチェンナード地方のものが特に美味しいと云われている。その味を紹介すべく、立川の地に店を構えた。肉質にこだわり、特にハラミはチルド(低温冷蔵)状態のものを使用、その旨みを損なわない工夫がなされている。厳選された良質の肉を用いても値段が押さえ気味に設定されているのは嬉しい。キムチは、韓国の家庭の味を大切にされた逸品だ。最近、あちこちで目にするようになったお好み焼き風のチヂミ。キャベツチヂミは、キャベツの甘味が身体に優しい素朴な味わいが特徴で、特に女性客に人気がある。石鍋ビビンバフに至っては、熱々に焼かれた石鍋に色とりどりの具材が激しく音を立てる。ご飯はお焦げの状態となりカリカリと香ばしい。「この値段でこの味」。これが木浦館のウリだ。また、お客さんとの対話を大切に、その中で得られた意見を料理にすぐに反映させる。この気配りが、人気を得ているのだろう。深夜2時までと比較的遅い時間まで営業しているので、何かと忙しい人たちにとっても有り難いお店だ。



石鍋ビビンバ(写真) 880円
ファミリー(タン、カルビ、ハラミ 300g) 1,380円
カルビ、ハラミ 各480円
キャベツチヂミ 480円



真味百撰

46

ごろさんの独断毒語

19

R-15

最近の映画に「バトル・ロワイヤル」という話題作があります。R-15という印がつけられたことでも話題を呼びました。私ははじめ、R-15の意味合いがよく解りませんでした。十五歳以下は観てはならないという印であることは解るのですが「R」とはいつたい何の略なのでしょう。世の中には物識りがあるもので、あのRというのは Restraint の頭文字で「制限された」という意味だと教えてくれた人がおりました。こんな些細なことでも、識るということはなかなし心地いいものです。ところで、この頃「バーチャル」という言葉をよく耳にいたします。実際には見ても触ってもいないのに、現実と見えてしまうケースはままあることです。これだけテレビやインターネットが発達すると、それを見ているだけで、自分が体験したような気分になる。さらに携帯電話が普及して「メルトモ」とか云って、会ったこともない人と平気でおしゃべりが出来る。あれは一種の特技でしょうか。例えば新春の名物になった箱根駅伝。今年は



轟三郎表裏V

特に往路、復路ともにデッドヒートを繰り返して応援にも熱が入りましたが、炬燵にあたりながら蜜柑をむき親観しているのと、東京・大手町の読売新聞社前でスタートを親観して、戸塚や小田原まで電車で追っ掛けて親観するのは大違いだし、走る選手と親観者との心理は、それこそ雲泥の差でありましょう。登山にも同様のことが云え、テレビでヒマラヤ登山の模様をぬくぬくと親観しているのと、高尾山に実際に登るとでは、高低の差はさておき

自然に対する感受には大きな差があるはずですが。風に吹かれ、雨に打たれて知るものがあります。私の俳句の師匠である上田五十五はよく「テレビ俳句はダメ。だと教えておられました。ブラウン管を眺めて実際に親たような気になっってしまうから、リアリティがなくなってしまうのだと。親で、触って、匂いをかいで、食べられるものならば舌で味わってみる。そうして、いるうちに自ずと一句を賜るのだと。さて、R-15の話に戻りますが、十五歳以下の少年少女に、これを適用したらどんなものでしょう。滑って、転んで、泣いて、ふんだんに遊んだらいいのです。ケンカも生きてゆく技術のひとつかも知れません。バーチャルから離れて「実」の世界を充分に体験することによって、バーチャルを「深く」味わえるようになるのではないのでしょうか。私は別にバーチャルを毛嫌いしているわけはありません。なにしろ「時代の子」ですから。それにしても、最近「焚火」を見かけなくなりましたね。登校の途中、ちよっと手をあぶって、駆け足で校門をくぐる小学生も見かけなくなりました。(やまだこうじ・詩人)

献芹之意

人に物を贈るとききの謙遜の心や言葉のこと。目上の人に対し、自分の意見を云うときの謙遜語。献は、たてまつる、ささげるの意。芹は、春の七草の一つセリ。転じて、つまらない野菜をいう。献芹は、「つまらないものですが、どうぞ」という意味。



「常葉我浄」(じょうはがけいじやう)放送時間

スカイパーフェクトTV 216ch、マイテレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十五年

真如苑

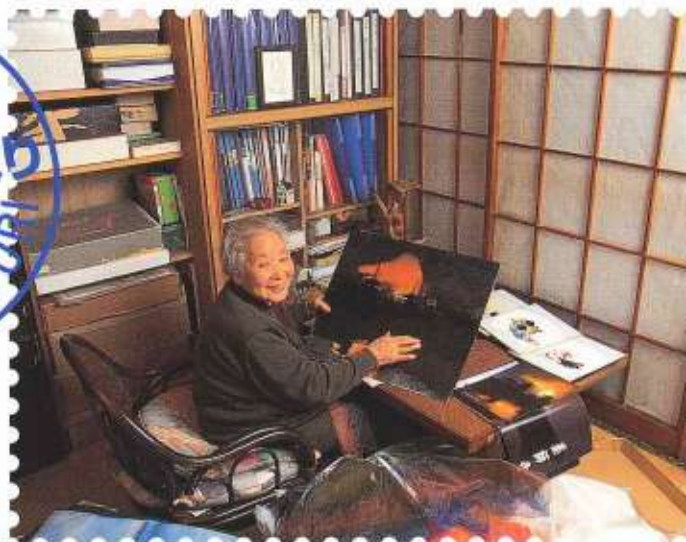
電話011-2-13 Tel. 527-0111(代)

Support Your Dream
あさひ銀行

デジタルえほん

メモリーブックにどうぞ...
ミッキーやキティちゃんと一緒に...!!
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。
PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING
文芸社 042-527-1911
〒190-0022 東京都立川市曙町5-17-13
FAX 527-1949
E-mail J065215@vifty.ne.jp

和紙ちぎり絵作家 横井キミ (柴崎町)



川合玉堂作「焚火」をモチーフに



ちぎり絵を始めたのが七十三歳の時。去年九十になりましたからキヤリアはたった十七年。まだまだ納得のいくものは出来ないのですが、昨年の五月、オランダで美術関係の仕事をしている娘から個展をやらなにかとの誘いがあり、アムステルダムまで行ってきました。なんでも「日蘭国交一〇〇年祭」の記念事業のひとつだとかで、こんな私でも役に立つのならと引き受けたんです。

向こうには十日ばかりいたのかしら。皆さん喜んでくれたみたいですが、詳しいことはわかりません。だって、私は言葉ができませんから（笑）。でも、会場で私の作品を見た一人の紳士が、次の日に大勢の子供たちを連れてやってきたのには驚きました。小学校の先生だったんです。嬉しかったですね。

ちぎり絵の他にもやりたいことはばかりで、身体がいくつあっても足りません。

横井キミ